



行田市長 石井 直彦氏

市長のメッセージ

行田市は、埼玉県名発祥の地としての由緒ある歴史が息づくまちです。

本市には、忍城址や埼玉古墳群、12万株の蓮が咲き誇る古代蓮の里に加え、世界最大の田んぼアート、日本遺産に認定された足袋蔵、神社や商店の軒先を彩る花手水など、魅力あふれる文化・歴史資源が数多くあり、これを国内外に発信し、更なるまちの賑わいに繋げるべく取り組んでいます。

また、先人から受け継いだ伝統を守りつつ、新たな時代の流れを積極的に捉えたまちづくりを進め、将来都市像「いにしえと未来を紡ぐ 誇れるまち ぎょうだ」の実現を目指してまいります。

はじめに

行田市は、埼玉県の北部、都心から60km圏に位置し、東は羽生市と加須市、南は鴻巣市、西は熊谷市、北は利根川を隔てて群馬県と接している。鉄道はJR高崎線が市の南西部を、秩父鉄道が中央部を東西に走り、市内には5つの駅が設置されている。道路は国道17号と国道17号熊谷バイパスが南西部を縦断、国道125号が東西に横断し、東北自動車道や関越自動車道、圏央道へのアクセスも良い。

行田市には、豊かな自然と古代からの歴史を感じられる観光スポットが数多くある。

埼玉県名発祥の地、行田市大字埼玉さきたまにある「埼玉古墳群」は、令和2年に県内初の国の特別史跡に指定された。国宝「金錯銘鉄剣きんさくめいてつけん」が出土した稲荷山古墳や、日本最大級の円墳である丸墓山古墳など9基の大型古墳が群集する。「古代蓮の里」では、悠久の眠りから目覚め開花した古代蓮など42種約12万株の蓮の花が咲き誇る。戦国時代の終りに、豊臣秀吉の命を受けた石田三成らによる水攻めに耐え抜いた忍城は、浮き城の異名を持ち、映画「のぼうの城」の舞台にもなった。

行田は足袋のまちとしても有名である。平成29年には行田足袋と足袋蔵のストーリー「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」が県内初の日本遺産に認定された。テレビドラマ「陸王」のロケ地にもなり、「足袋といえば行田」というイメージが全国へ再び発信された。

観光物産館「ぶらっと♪ぎょうだ」リニューアルオープン

一般社団法人行田おもてなし観光局が運営する観光物産館「ぶらっと♪ぎょうだ」が、昨年4月リニューアルオープンした。これまでの「観光情報館」から名称を変更した。観光物産館の店内は、足袋のまち行田らしく和モダンなイメージ。おしゃれなデザインの足袋やアフリカなどの海外のカラフルな生地を使用した「南河原スリッパ」をはじめ、行田の地粉を使った「行田の餃子」、奈良漬、十万石まんじゅう、わたばく牛乳、地酒、地ビールなど約50社350種類の商品を取り揃えている。

行田おもてなし観光局は、昨年1月に観光振興を専門的・戦略的に推進するために設立され、JR行田駅前観光案内所、忍城バスターミナル観光案内所と合わせ観光物産館を一体的に運営し、地域観光の活性化を図る。観光庁が提唱する「観光地域づくり法人(登録DMO)」への登録を目指している。



観光物産館「ぶらっと♪ぎょうだ」-市内の350種類の商品が勢ぞろい

行田市概要

人口(2021年12月1日現在)	79,400人
世帯数(同上)	35,409世帯
平均年齢(2021年1月1日現在)	49.4歳
面積	67.49km ²
製造業事業所数(工業統計)	170所
製造品出荷額等(同上)	2,790.1億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	674店
商品販売額(同上)	1,772.6億円
公共下水道普及率	55.9%
舗装率	70.3%

資料:「令和2年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR高崎線 行田駅
- 秩父鉄道 持田駅、行田市駅、東行田駅、武州荒木駅
- 東北自動車道 羽生ICから市役所まで約14km

はなちょうず 行田「花手水week」、SNSでも話題に

花手水は、行田八幡神社が令和2年4月、コロナ禍で自粛生活が続く中、「参拝に訪れる方に癒しを提供したい」という思いから、手水鉢に色とりどりの花を浮かべたことから始まった。この取り組みは前玉神社にも広がり、さらには、訪れる人々に地域全体でおもてなしをしたいという思いから、同年10月から商店や民家の軒先にも花手水を飾る行田「花手水week」が開催されている。開催期間は毎月1日～14日(11月と1月は15日～末日)で、場所は60カ所を超える。華やかで写真映えもするので、InstagramなどのSNSに投稿され話題となっている。

そして、昨年4月からは「希望の光」をテーマに、花手水のライトアップイベントが月1回開催されている。開催時間は日没から午後8時まで。行田八幡神社や前玉神社、忍城址、スポット周辺の店舗や民家の軒先などに飾られた花手水の手水鉢が水の中から照



色とりどりの花が浮かぶ花手水

らされ、幻想的な風景を醸し出している。昼と夜、2つの花手水の姿をぜひ楽しんでいただきたい。

世界最大の田んぼアート

水田をキャンバスに見立て、色彩の異なる複数の稲を植え、絵や文字を表現する田んぼアート(表紙写真)。約2.8haの大きさを誇る行田の田んぼアートは、平成20年から始まり、平成27年には「世界最大の田んぼアート」としてギネス世界記録®に認定された。13回目となった昨年の田んぼアートでは、“Edible Art(食べられる芸術)プロジェクト”として3つのプロジェクトを展開した。

まず、田んぼアートのデザインは、「田んぼに甦るジャポニスム～浮世絵と歌舞伎～」。ジャポニスムで絵画の巨匠たちに多大な影響を与えた「浮世絵」と「歌舞伎」を、歴史文化を色濃く残す「行田の田んぼ」に描くことで、「田んぼ×文化芸術」という新しいジャポニスムを起す。

2つ目は、田んぼアートから収穫した県のブランド米「彩のかがやき」を使用し、長期保存可能なライスヌードルを製造する。田植えイベント参加者に配布するほか、防災備蓄食として活用する。

さらに、自宅で田んぼアートを楽しめるようVRコンテンツを作成し市ホームページで公開しているほか、国内外に発信するため、田んぼアートの制作過程を収めた映像コンテンツを日英2言語で公開している。

(樋口広治)